

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2014-12-22

APM news 115

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館(旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

新作ポスター解説 秋山孝長岡コレクション 「マイ・スキップ」連載記事 2014年11月号 vol.166

Views-Sarajevo 1914-2014

Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka

秋山孝長岡コレクション 149

長岡出身の秋山氏が自作を語る・マイスキップ誌上展
<http://www.tamabi.ac.jp/gurafu/akiyama/>



秋山 孝 多摩美術大学教授・秋山孝ポスター美術館長岡/館長
1952年長岡市生まれ。上稲小学校、宮内中学校、長岡商業高等学校、多摩美術大学卒業。東京藝術大学大学院修了。1986年、自然保護ポスター「WILD LIFE-HELP」でワルシャワ国際ポスタービエンナーレ・金賞を受賞し、1998年、インド核実験反対のポスターで国連賞を受賞する。他、各国のビエンナーレにおいて多数受賞。フィンランド、メキシコ、イタリア、ウクライナ、中国、アメリカ、ポーランドで国際ポスター展の審査員として招聘される。著書に「Chinese Posters」(朝日新聞出版)、「イラストレーションスタディーズ」(玄光社)他多数。



秋山孝ポスター美術館長岡
<http://apm-nagaoka.com/>



「サラエボ100プロジェクト("Sarajevo100" project/ULUPUBIH)」の組織委員会より「Views-Sarajevo 1914-2014」というテーマによるポスター制作の依頼があった。日本人は、サラエボと言えば歴史や地理から見ても縁遠い。しかし、ポスターアーティストは、そんなわけにはいかない。サラエボは、ボスニア・ヘルツェゴビナの首都である。近年では1992年4月1日から1995年まで続いたボスニア・ヘルツェゴビナ紛争で知られている。ぼくが選んだテーマは、1914年にラテン橋でオーストリア=ハンガリー帝国大公夫妻が暗殺され、第1次世界大戦のきっかけとなったサラエボ事件である。そして、犯人の民族主義者プリンツィプの逮捕シーンを描いた。



(上) 街に設置されたバナー/サラエボ
(下) 展覧会/Collegium Artisticum gallery (サラエボ)

[Title] ----- Views-Sarajevo 1914-2014
[Size] ----- 1030 x 728 mm (B1)
[Technique] --- Offset printing
[Date] ----- 2014
[Client] ----- "Sarajevo100" project
[Category] --- 社会
[Ideal] ----- 1914年ラテン橋でオーストリア=ハンガリー帝国大公夫妻が暗殺され、第1次世界大戦のきっかけとなったサラエボ事件を取り上げた。犯人の民族主義者プリンツィプの逮捕シーンを描いた。

CLOSE



秋山孝ポスター美術館長岡 現在、冬期休館中です。
春4月18日(土)より、「イラストレーション・ダイアログ6年間の試み」展が始まります。
Tel, Fax : 0258-39-1233 E-mail : info@apm-nagaoka.com